

ばんけい

教育ほんといっしょ

かわら版

こ みち
教育の小径 No.122

2018 December

12月号



(一財)総合初等教育研究所参与
前 国士舘大学 教授

北 俊夫先生



今月のことば

てんびん か
天秤に掛ける

2つのものを優劣や損得、軽重などの観点から比べることをいいます。二股を掛けることを「両天秤を掛ける」といいます。

よい発問・悪い発問

- 教師が発する問いを「発問」といいます。発問は疑問詞を含めて発せられますから、子どもの思考を促したり、理解を深めたりする重要な役割があります。
- 子どもの思考や意識を踏まえること、子どもから多様な考えが出されること、思考の連続性と発展性、理解の深まりがあることなどが「よい発問」です。

今月のライト兄弟の日
記念日 (12月17日)

アメリカのノースカロライナ州で、ウィルバーとオーヴィルのライト兄弟が動力飛行機の初飛行に成功した日です。「飛行機の日」ともいいます。

発問と指示はどう違うのか

授業は教師の言葉かけによって進行していきます。その主要なものが発問です。発問と指示の違いを混同している場面に出会うことがあります。

発問には、子どもの思考を促したり、理解を深めさせたりする機能があります。例えば「どうしてですか」(Why型)や「どのようになっているのだろうか」(How型)などは思考を促す発問です。「どうしたらよいだろうか」とか「AとBのどちらがよいでしょうか」と問うのは、子どもに意思決定を求めている発問です。これらに対して、「どのようなことがわかりましたか」(What型)と問うのは子どもの理解を確認する発問です。

一方、指示とは学習活動を促すものです。例えば「教科書の○○ページを開きなさい」「自分の考えをノートにまとめましょう」などです。これらはいずれも何をするのかを子どもたちに明確に指し示しています。教師が指示すると、子どもたちはそのように行動します。ですから、外見的には主体的に取り組んでいるように見えますが、子どもたちは受動的になりがちです。

これらのほかに、子どもに助言する言葉かけもあります。教師の設定した

目標を効果的に実現させるためには、子どもの学習状況に応じて、発問と指示と助言などの言葉かけを使い分け、学びが深まりのあるものになるよう効果的に構成することが求められます。

よい発問の要件

よい発問には次のような要件があります。まず、子どもが抱いた疑問や意識を踏まえていることです。子どもたちがおかしいな、どうしてだろうと疑問をもったとき、その状況を察知し、教師が代役になって発問します。すると、教師の発問が子どもたちのなかにストンと入っていきます。子どもの疑問や意識と教師の発問をマッチングさせることがポイントです。

例えば、青くて小さなみかんを摘み取っている写真を提示します。この事実を見て、子どもたちは「みかんを採ってしまうのはもったいない」と反応します。これを受けて教師は「どうして、せっかくできたみかんを摘み取ってしまうのだろうか」と発問します。子どもからは「そうだよ」と同意する声や「それは○○だからではないか」と予想するつぶやきが出されます。

次の要件は、多様な考えが出されることです。知識や技能の有無を問うものではなく、考えたり判断したりする

行為を促します。知識を問うとそこには正答がありますから、多様な反応は期待できません。子どもに思考を促すと、子どもの数だけ反応が期待できます。答えが1つではない発問をすることがポイントです。

さらに、発問と発問のあいだに思考の連続性や発展性、理解の深まりがあることです。教師の論理ではなく、子どもの意識などを踏まえた発問を構成することが大切です。教師には子どもの思考や理解の状況を読む力(子ども理解力)が求められます。

悪い発問の例

悪い発問はよい発問の逆です。例えば次のような発問です。

事前の情報や資料など何もないところで、いきなり知識や技能を問うことです。例えば「徳川家康はどんなことをした人か知っていますか」「この問題を解くことはできますか」などの発問です。これでは物知りな子どもやすでに学んでいる子どもだけが活躍します。共通の基盤をつくってから発問することを心掛けます。

答えが1つしかない発問も望ましくありません。子どもの能力を超えた高度な答えを期待する発問は論外です。子どもの思考が停止してしまいます。

発言する子どもに偏りが

授業を進めていると、発言する子どもに限られます。どの子にも発言してほしいのですが、挙手などの意思表示をしません。どのように指導するとよいのでしょうか。

教師は誰でも、どの子どもにも発言してほしいと願っています。多くの学級では発言したい子どもに挙手をさせ、教師が指名しています。すると、どうしても頭の回転の速い子、発言力のある子、能力の優れた子などに限られることがあります。どの子どもも発言できるようにするには次のような工夫をするとよいでしょう。

まず、誰でも答えることができるような発問を重視します。例えば資料から何がわかるかを問います。事実を押さえたうえで、そこからどのようなことがわかるかを考えさせます。

考えをもっていても自信がなくて発言しようとしないう子どもには、教師が指名したりノートの内容を代わって読み上げたりします。そのあとに、「よく言えたね」「よい考えだよ」などと褒めてやります。自信をもたせることが次への意欲や励みにつながります。発言することを躊躇している子どもがいるときには、その原因を把握し、排除するよう努めます。

発問したあとに、時間をとる方法もあります。すぐに答えさせると、ひらめきのよい子どもだけが目立ちます。時間を置くことにより、じっくり考えるタイプの子どもの考えを整理することができ、発言の意欲につながります。ノートなどに書かせてから発言を促すことも効果的です。

教育の動向

ブロック塀の点検結果

この6月に発生した大阪北部の地震で小学校のブロック塀が倒壊し、子どもが死亡しました。このことを受けて、文部科学省は全国の5万1082校に安全点検を依頼しました。

点検の結果によると、ブロック塀がある学校は1万9953校で、これは全体の約4割に当たります。ブロック塀に劣化や損傷があったり基準に合わなかったりするなど、外観にもとづく点検で、安全性に問題があった学校は1万2652校でした。これは全体の24.8%です。ブロック塀のある学校の6割で何らかの問題があることが

明らかになりました。ちなみに、ブロック塀の高さは2.2メートル以下と定められているそうです。

文科省は、問題がなかったと報告した学校のなかには、金属探知機などを使って塀の内部の鉄筋の状態を点検する必要がある学校もあるとしています。

ブロック塀の安全性に問題があった学校数の多かったのは、大阪府(962校)、福岡県(643校)、埼玉県(596校)の順でした。10%以下は北海道(3.5%)、岩手県(4.0%)、長野県(5.1%)でした。

危険な塀を撤去するなど応急対策が遅れている原因には、ブロックの状態に対する認識の違いや自治体の財政上の問題もあるようです。安全第一を最優先に早急の対応が求められます。



「思考力・判断力・表現力」の

指導と評価

その2

課題① 学力調査の結果

毎年4月に、6年生を対象に国語科と算数科の学力調査が実施されています。平成30年度に実施された各問題の平均正答率は次のとおりでした。

	【国語科】	【算数科】
A問題	70.9%	63.7%
B問題	54.8%	51.7%

これを見ると、知識や技能の習得状況を見るA問題については概ね良好な結果が出ています。ところが、B問題については国語科が16ポイント、算数科が12ポイントも低くなっています。B問題の結果に課題があるのは毎年度の傾向です。

B問題は、習得した知識や技能を活用して問題解決するために必要な思考

力、判断力、表現力などの能力の育ち具合をみる問題です。

基礎的な知識や技能については、教師がわかりやすく教えることによって身につけさせることができます。しかし、問題解決に必要な思考力や判断力や表現力は教えても身につけません。能力は育てる学力だからです。

学力調査の結果から、わが国の子どもたちに思考力、判断力、表現力などの能力が十分育っていないことが明らかになっています。このことは、知識や技能と比べて思考力、判断力、表現力を育てる指導が十分に行われていないことを意味しています。

各学校や教師は、まずこの現実と課題をしっかりと受けとめることが重要です。学力調査の結果は、子どもの実態であると同時に、教師の指導上の課題でもあります。

INFORMATION

ぶんけいの移行措置対応 **冬休みからのしあげ教材**

1年間の学習を1冊でまとめて復習!



国語・算数のしあげ
これだけじゃようぶ 1~6年



国語・算数・理科・社会のしあげ
これだけべき! 3~6年



4教科 充実の復習ページ
パーフェクト 5・6年

NEW!
パーフェクト
5・6年生には
英語学習ブックレット
Enjoy★English
つき

編集後記

「教育の小径」のすべてのバックナンバーを文溪堂のHPからお読みいただけます。ダウンロードして印刷も可能です。お知り合いの先生にもお勧めください。



お詫びと訂正
121号11月号「今月のことば」に誤りがありました。お詫びしますとともに、次のように訂正いたします。
「怪我の巧妙」→「怪我の功名」。

ぶんけい 教育の小径 検索

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発行：株式会社文溪堂
発行日：2018年12月1日